

地域おこし協力隊事例集



くらしの中に

総務省

Ministry of Internal Affairs
and Communications

令和6年8月
総務省 地域力創造グループ
地域自立応援課

地域おこし協力隊事例集について

- 地域おこし協力隊の活動内容を活動分野別にまとめた「地域おこし協力隊事例集」を令和6年8月に作成・公表。

<掲載イメージ>

北海道石狩市 竹林 秀

基本情報



【年 齢】
24歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
東京都杉並区
【前 職】
法律関係
【活動時期】
R5.3~

協力隊に応募したきっかけ

学生時代のころから厚田のことを知っており、よくドライブに来ていました。特に聚富から見える夜景に惚れ、10年後ぐらいには住みたいなとずっと考えていました。タコ飯を作っている方とは以前から知り合いで、東京から帰省するたびにお邪魔していたのですが、実はタコ飯の後継者を地域おこし協力隊として募集しているんだよねというお話を聞き、厚田に住むなら今ではないかと思い、協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

来年からは通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。また、最も重要な拠点づくりに関しては、大きなお金がかかること、屋根の修復等専門な知識が必要なこと等多くの困難があります。協力隊後を見据え、いつでも住むことができるように冬の間に計画を立て、来年までには使えるような状態にするために専門的な知識や資格の習得や、拠点づくりに取り組んでいきたいです。また、来年も引き続き地域との交流を深めて顔を覚えてもらいたいです。

商品開発・販売

活動内容

●地域の特産品（「タコ飯」の継承）

石狩市初めてのミッション型地域おこし協力隊として、地域の特産品「タコ飯」の継承を中心に活動しています。とはいえ、地域の方とも接したくて協力隊になったので、まずは地域のイベントや他の協力隊のイベントに参加、お手伝いすることを中心に活動しています。

ミッションであるタコ飯も一通り一人で作れるようになりました。二年目からはタコ飯を作る速度のスピードアップとともに、タコ飯の課題解決、拠点づくりを手がけていきたいです。



タコ飯は一通り作れるようになりましたが、活動していく中で課題が多く出てきました。まずはタコ飯を作るスピード、次にタコ不足、最後に最も重要なものが拠点づくりです。来年からは一日300個を一人で作れるようにスピードを上げること、今年は8月でタコが無くなってしまったので、通年でタコを仕入れることができる体制を整えることを目標に活動していきたいです。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】

（メールアドレス（職場））r2303001@city.ishikari.hokkaido.jp
（電話番号（職場））0133-78-2020

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

（フェイスブック）<https://www.facebook.com/vladimir.lewis.39>

<活動分野>

- 1 移住・定住促進
- 2 不動産利活用
- 3 観光・情報発信
- 4 商品開発・販売
- 5 地域コミュニティ活動
- 6 漁業・水産業
- 7 農業・林業
- 8 環境保全・自然保護
- 9 医療・保健
- 10 デジタル
- 11 教育・文化
- 12 スポーツ
- 13 事業承継

05 地域コミュニティ活動

基本情報



【年 齢】
32歳
【出身地】
北海道札幌市
【転出元】
埼玉県鴻巣市
【前 職】
食品メーカー研究職
【活動時期】
R3.2～R6.1

協力隊に応募したきっかけ

自分のキャリアを見つめなおす中で、より自分が心地良いと思う環境で、ライフワークとなるような仕事をしたいと思うようになった。特に、地域と密接に関わる仕事に興味があり、調べている中でたまたま地域おこし協力隊の制度を知った。地域づくりの活動をしながら、地域資源を活用して起業を目指したいと思い、応募を決意した。

今後の抱負・任期後の目標

- ・これまで地域で行ってきた活動を、地域に定着させられる形にしていきたい。
- ・地域資源を使用した商品開発を進め、地域の食材の活用と地域の認知度アップに貢献していきたい。

活動内容

●地域内の交流促進とチャレンジの場作り

地域の規格外食材の販売をメインとしたマルシェを定期的開催。マルシェでは、地域の住民や小学生が、手作りの飲食物や物品の販売なども行う。地域でのイベントが少なくなる中で、地域住民同士の交流の機会となっている。また、出店を地域住民から募ることで、お菓子や物品の販売をしてみたいという地域住民のチャレンジの場となっている。



●地域について考えるワークショップの開催

高知大学地域協働学部の先生を講師に招き、地域住民と地域づくりについて考えるワークショップを開催。地域づくりについての考え方や進め方、他地域の事例を学びながら、参加していただいた高知大学の学生と役場職員、地域住民の方で、地域が目指していく姿を改めて考える機会とした。



●特産品のショウガを使用した商品開発

四万十町はショウガの生産量が日本一であり、地域では、ショウガを練りこんだかりんとうが食べられている。現在、このお菓子をベースとし、より多くの方に受け入れられる商品づくりを行っている。四万十町の特徴あるお菓子として、より多くの方に食べていただくことで、この商品を通じ、特産品の活用と四万十町の魅力を伝えていきたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】
(メールアドレス(職場)) 103050@town.shimanto.lg.jp
(電話番号(職場)) 0880-22-3124
【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
四万十町地域おこし協力隊facebook
<https://www.facebook.com/towakyoryokutai>

基本情報



【年 齢】
31歳
【出身地】
熊本県芦北町
【転出元】
熊本県熊本市
【前 職】
熊本大学 特定事業研究員
【活動時期】
R4.4～R7.3

協力隊に応募したきっかけ

熊本地震が発災した2016年から現在に至るまでに、地元大学の研究員として復興の現場で活動をしてきました。その活動も日常的な住民の方とのコミュニケーションから復興事業へのお手伝いなど多岐にわたってしてきました。足繁く益城町に通うなかで、インフラ復旧と住まいの再建が復興のゴールになっているのではないかと課題が芽生え、大文字の復興ではない、復興(地域づくり)の在り方を提示する必要があるのではないかと考えました。地域おこし協力隊として、この先10年の暮らしのイメージを地域と一緒に模索しながら、培った経験を地域により還元できる手段として、地域おこし協力隊に応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

大文字の復興ではなく、地域に根ざした復興(地域づくり)を目指したいと考えています。そのために、断片的になりがちなハード事業とソフト事業の両方に関わりを持ちながら、軸の通ったまちづくり活動の実践を続けていきたいと考えています。地域と協働した活動の結果、町内の暮らしに少しでも貢献できたらと思います。地域おこし協力隊としての活動の傍ら、益城町で建築デザインの事務所も開設しました。任期後も継続して公共事業へのデザイン・発注協力、地域まちづくりへの伴走支援を行いながら、民間事業者としても積極的な活動を目指しています。半日半官としての動きを維持しながら、町内外、県外にも活動を徐々に広げたいと思います。

活動内容

●公共空間活用プロジェクト

熊本地震後に整備された公共空間を地域の方に愛してもらえるように誕生(竣工)をお祝いしたり、日常の延長につながるイベントを実施したり、地域と協働した活動を行っています。その一部は、熊本地震からの記憶の継承としても位置づけられています。



△木山橋開通記念イベント



△熊本地震4.14のつどい

●公共事業デザインプロジェクト

公共性の高い事業は関係者も多く、未来形を想像するのが困難です。関係の目線を共有するために、与件をヒアリングし、未来のイメージを描き、事業を整える取組みを行っています。イメージはあくまでたたき台で、未来のために訂正を繰り返します。



△K地区施設周辺整備PJ



△T地区広場整備PJ

●まちづくりスクールプロジェクト

まちづくり活動は個人の想いの強さから始まります。一方で、多くの知恵や協力のうでで成り立つとも考えています。企画立案の視野を広げ、実践の質を高めるプログラムの開発を行っています。23年度初開講なので結果は未だですが、持続的な活動を目指しています。



スクール受講のポイント

- 1) まちづくりへの想いを持った仲間に出会える
- 2) まちづくりの最前線に関わる講師と学びを高めることができる
- 3) 企画立案の視野を広げ、実践の質を高める技術が身につく
- 4) 提案で終わるだけでなく、実施まで目指す
- 5) 協力隊が伴走支援を行う

連絡先

【メディア等の取材連絡先】

(メールアドレス(個人)) yoshiikai.yuta@gmail.com
(電話番号(職場[復興まちづくりセンターにじいる])) 096-284-1711
※普段は復興まちづくりセンターにじいるを拠点にしています。

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】

(協力隊Instagram) 右図QRコード
(協力隊FB) <https://www.facebook.com/profile.php?id=100082493079756>



MASHIKI_KYORYOKUTAI

基本情報



【年 齢】
58歳
【出身地】
大阪府藤井寺市
【転出元】
大阪府茨木市
【前 職】
・建設会社勤務
・大手テーマパーク管理業務
・ルワンダで活動
【活動時期】
R3.4～R5.3

協力隊に応募したきっかけ

子供たちも独立し、好きな場所で好きなことをして暮らしていきたいという思いがあり、夫婦ともに温泉が大好きなため、大分県への移住を考えていたところ、大分市の地域おこし協力隊の募集を知りました。

これまで従事してきた建築関係のことやボランティア活動、友人を集めて行ってきたイベント活動など、経験を活かして町おこしやコミュニティ活性化に役立つことが出来ればと思い応募しました。

今後の抱負・任期後の目標

退任後はそのまま大分市大南地域に住んでいます。

任期中に連携して活動していた戸次本町街づくり推進協議会へ入会、紹介いただいた会社へ就職し、引き続きイベント活動やボランティア活動など、地域・社会貢献活動を主に行っています。

活動内容

●イベントの開催など

「戸次本町つきいちマルシェ」
大南地域の特産品、野菜、加工品などを販売する朝市

「蔵（くら）シックコンサート」
蔵ならではの響きで生演奏を楽しめる帆足本家酒造蔵でのコンサート

「戸次本町クロスロードマルシェ」
ルワンダを中心とした多国籍イベント
コンサート、アフリカルワンダのスラムでのお話、アーティストのライブペイント、色々な国の料理、雑貨など多種多様のお店が出店

「戸次本町まちなみ探検隊」
子どもたちに戸次本町のまちなみや、街の人などをデジタルカメラで撮影してもらい、趣のあるまちなみとカメラに興味を持っていただくワークショップ

●地域間交流など

- ・愛媛県伊方町へ視察
…交流を図り、相互に地域の魅力を発信
- ・愛媛県伊方町のマルシェ出店
…戸次ごんぼの会商品販売や大分市観光PR



連絡先

【メディア等の取材連絡先（個人）】
（メールアドレス）hirotonakamura3939@gmail.com
（電話番号）080-3591-7352

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Facebook）大分市地域おこし協力隊
<https://www.facebook.com/oitashichiikiokoshikyouryokutai>

11 教育·文化

基本情報



【年 齢】
23歳
【出身地】
岩手県胆沢郡金ケ崎町
【転出元】
宮城県仙台市
【前 職】
大学生
【活動時期】
R5.4～（1年目）

協力隊に応募したきっかけ

高校生の教育について、自身の経験に基づいた理想像があり、実現方法を探っていた。そんな中同級生が協力隊として活動し始め、着任当初からよく手伝っていた。協力隊に対する地元の方の理解が進み、私も協力隊としてなら学校外の立場から高校生に携われると考え応募した。

今後の抱負・任期後の目標

全ての高校生が夢に挑戦することができる町を目指す。着任中の目標は地域のイベントや魅力的な大人と高校生のマッチングを行うこと。高校生にとって金ケ崎がアイデンティティの一つとなるように、原体験を提供する。卒隊後は学力向上を目的とした塾と教え合いのできる自習室の経営を目指す。

活動内容

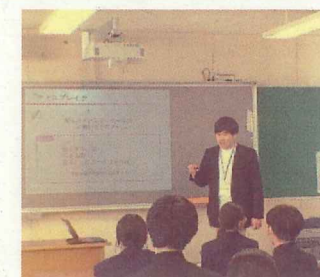
● 中高生向け放課後自習室

中高生が放課後に自習するために学びの空間を作る。現在、町内施設を間借りして試験的に実施中。中高生の認知が増えてきており、利用者も増えてきた。各机にホワイトボードを設置するなどして、教え合いが活性化するように働きかけている。



● 金ケ崎高校魅力化コーディネーター

主に「総合的な探究の時間」のサポートを行っている。目的の設定や具体的な内容への助言をしている。また、高校生のアクションで必要な情報を町内から集め、提案している。



● 町内のイベントと高校生のマッチング

課外活動へのサポートとして、町内のボランティア募集情報やイベント告知を行っている。地域の方へ向けて高校生の活動を周知し、関心を持ってもらうきっかけにしたい。



連絡先

【メディア等の取材連絡先】金ケ崎町中央生涯教育センター
（メールアドレス） chuou38@town.kanegasaki.iwate.jp
（電話番号） 0197-44-3123

【活動の様子を発信しているSNS・ブログなど】
（Instagram） @ryusei.arisumi

